

学術大会長挨拶

県立広島大学保健福祉学部看護学科 岡光 京子

広島保健福祉学会は、広島県立保健福祉大学教職員の研究・教育の一環として、平成13年3月から毎年学術大会を開催してきました。今回で10回目を迎え、この節目の年のテーマを『地域住民のニーズに応えるがん医療・看護のネットワークづくり』としました。

わが国の医療は、医療機関中心の医療から、地域社会への継続性を重視した包括的な医療へと転換が図られています。がん医療の分野においても、平成19年に施行された「がん対策基本法」の基本的施策の第二節がん医療の均てん化の促進等でも示されているように、「医療従事者の育成や居宅においてがん患者の療養生活の質の維持向上のために支援」への施策が含まれています。広島県においても、平成20年3月に策定された「広島県がん対策推進計画」で「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上」を目標に掲げています。そして、現在、がん医療の均てん化を目指してがん診療連携拠点病院を中心に整備が進められるとともに、がん患者さんおよびご家族が住み慣れた地域で安心して療養できるような体制が整いつつあります。

このような状況の中で、がん患者さんおよびご家族が、療養生活の質を維持向上しながら地域で療養するためには、がん診療連携拠点病院と一般病院・診療所・訪問看護ステーションなどのネットワークが重要です。

しかし、現在、ひとりひとりのがん患者さんのニーズにうまく対応できるネットワークはあるのでしょうか。がん患者さんおよびご家族に関わる専門職者ががん患者さんの多様なニーズに応える支援の実践には多くの課題が山積みされているように思われます。

この大会では、長年、大学・地域でがん医療に取り組んでこられた本学教授・附属診療センター長の小山矩先生に特別講演を賜ります。これまでのがん医療の経験から、地域でのネットワークの連携の重要性について示唆に富んだお話をいただけるものと期待しております。続いて、尾三地区でがん医療・看護に関わってこられた講師によるパネルディスカッションを予定しています。ここでは、地域でがん患者さんのニーズを充足するには、専門職者としてどのような役割か果たせるか、他種職との協働、地域社会との連携などについて討論し、その中で「ネットワークづくり」の構築に示唆を得ることができればと考えています。そして、日々のがん患者さんおよびご家族の療養生活の質の維持向上への支援につなげていくことができる実現性のある学術大会になるように企画しました。

限られた時間ですが、参加者の皆様と一緒に考えて、有意義な大会にしたいと考えています。